

平成 23 年 6 月 21 日
<b>鉄スクラップ輸出入 ～震災の影響がどう表れるか～</b>
<p><b>日本の鉄スクラップ輸出:今年 1～3 月 142 万トン</b></p> <p>1～3 月累計 142.5 万トン。前年同期 (194.4 万トン) 比 26.7%減。3 月は 44.5 万トンで前月 (55.7 万トン) 比 20.1%減に落ち込んだ。</p> <p>10 年は 647 万トン=10 年輸出量は 647.2 万トン (前年 939.8 万トン) で韓国 333.6 万トン (全体の 51.5%)、中国 271.4 万トン (同 41.9%)、台湾 29.9 万トン (同 4.6%) 他。日本の輸出は韓国向けが大半。次いで中国。この 2 カ国で全体の 9 割以上。4 月以降の動きが注目される。</p> <p><b>中国の鉄スクラップ輸入</b></p> <p>今年 1～3 月=累計 132.0 万トン前年同期 (181.6 万トン) 比 27.3%減。3 月は 61.2 万トン (前月 24.9 万トン) で 1 年ぶりの高水準。旧正月 (2 月初めから 1 週間) を避けた輸入玉が集中した。米国 26.4 万トン、日本 21.3 万トン。</p> <p>10 年は 584.8 万トン=10 年は 584.8 万トンで前年 (1369.2 万トン) 比 57.3%の大幅減だった。日本 268.2 万トン (全体の 45.9%)、米国 171.3 万トン (29.3%)、香港 37.3 万トン (6.4%) など。中国の鉄スクラップ輸入は粗鋼生産とほとんどリンクしていない。一昨年 (09 年) こそ 1369.2 万トンの輸入実績を残したが、昨年は粗鋼生産 6 億 2,665 万トン、前年比 9.3%増だが鉄スクラップ輸入は 4 割も減った。粗鋼生産の増大から自家発生、製造工程スクラップの発生が増加していると見られること (ただし統計的には把握できない)、電炉粗鋼生産シェアは 8.5%と低いこと。世界の価格動向に敏感 (安ければ買う) なためとされる。</p> <p><b>韓国の鉄スクラップ</b></p> <p>今年 1～3 月=累計 181.0 万トン。前年同期 (214.1 万トン) 比 15.5%減。3 月 75.1 万トン (前月 61.8 万トン) 比 21.6%増と堅調。</p> <p>10 年輸入は 809 万トン=10 年は 809.0 万トン。前年 (780.0 万トン) 比 3.7%増で過去最高。日本 336.0 万トン (全体の 41.5%)、米国 286.1 万トン (35.4%)。ロシア 80.0 万トン (9.7%)。昨年輸入は 800 万トン台を超した。トップシェアは日本が前年の 48.3%→41.5%、米国 36.2%→35.4%で変わらないが、最近は一種の海外「宅急便」であるコンテナを利用した中南米の輸入が増加。輸入の多角化が見られる。</p>
<b>【日刊市況通信 平成 23 年 5 月 17 日掲載】</b>